

エコ・センチュリー21 殿

質 問 事 項 書

第1 事業者について

- 1 エコ・センチュリー21の株主構成はどうなっているか。
- 2 エコ・センチュリー21の廃棄物処理業の実績はいかなるものか。
- 3 エコ・センチュリー21はその事業資金をいかにして調達した(する)のか。
- 4 エコ・センチュリー21の貸借対照表上の資産額、負債額、資本額は、幾らか。
- 5 エコ・センチュリー21の従業員数は何人か。
- 6 エコ・センチュリー21の従業員数の業務部門ごとの内訳はどうなっているか。
- 7 エコ・センチュリー21の従業員のうちで本件施設の操業に関連した資格・免許等を有する者につき、その資格・免許等を示した上で、その資格・免許等ごとにその保有者の人数を明らかにされたい。
- 8 本件施設につき県に対して事前相談を行っていた担当者は誰か。
- 9 エコ・センチュリー21は、その関連会社とされる株式会社環境施設といかなる関係にあるか。
 - ア 従業員の出向や転籍などの交流はあるか。
 - イ 融資・借入・出資・配当などの資金関係はどうなっているか。
- 10 株式会社環境施設の廃棄物処理業の実績はいかなるものか。
- 11 エコ・センチュリー21の従業員のほかに、本件施設の操業に携わる者はいるか。
 - ア 株式会社環境施設の従業員などが操業に携わることはあるか。
 - イ タクマの従業員などが操業に携わることはあるか。
 - ウ 上記以外の者が操業に携わることはあるか。
- 12 本件施設について株式会社環境施設が事業主体とならなかったのはどうしてか。

第2 廃棄物の量や内容等について

- 1 搬入する廃棄物の出所は限定されるのか。限定されるとすれば、どのような形で限定されるのか。
- 2 焼却対象となる廃棄物は、どのようなもので、いかなる量が処理されるのか。
 - ア 廃棄物量の予測はどのような根拠に基づくのか。
 - イ 廃棄物の現実の処理量はどのようにして計測するのか。
 - ① 処理量のデータは毎日・毎時に計測するのか。
 - ② 上記データを住民に公開することはできるか。
- 3 感染性廃棄物について
 - ア 感染性廃棄物とは具体的にはどのようなものか。
 - イ 感染性廃棄物の運搬・保管はどのようにして行うのか。
 - ウ 感染性廃棄物については、廃棄物と異なる取扱を予定しているのか。

第3 ダイオキシン類への対策について

- 1 焼却施設からの排ガス中のダイオキシン類濃度については、いかなる値を遵守するのか。
- 2 基準値の安全性について
 - ア 遵守するダイオキシン類濃度であれば安全であると考えていいのか。考えるとすれば、その根拠は何か。
 - イ 近隣の民家や田畑におけるダイオキシン類の濃度及び量はどれくらいになるのか。
- 3 ダイオキシン類の濃度測定は、どのような頻度で、どのようにして行うのか。
 - ア ダイオキシン類の濃度の測定結果はリアルタイムに判明するのか。
 - イ 施設の起動時や停止時におけるダイオキシン類の測定は行うのか。
- 4 処理される廃棄物の内容によって本件施設からの排ガス中のダイオキシン類濃度は変動するのか。

変動するとすれば、どのように変動するのか。

5 焼却される廃棄物の均一化はどのような方法で行うのか。

6 本件の焼却施設で焼却できる最小限度の廃棄物量はどれくらいか。

ア 廃棄物量が焼却炉の容量より少ない場合には運転はどうするのか。

7 焼却処理におけるダイオキシン類対策について

ア 焼却処理の各工程におけるダイオキシン類対策の具体的内容は、どのようなものか。

① ロータリーキルン炉の高温化はどのようにして行うのか。

② ストーカー炉の高温化はどのようにして行うのか。

③ 二次燃焼室の高温化はどのようにして行うのか。

④ ロータリーキルン炉、ストーカー炉、二次燃焼室におけるダイオキシン類の分解は、どのようにして確認できるのか。

ロータリーキルン炉、ストーカー炉、二次燃焼室の各出口におけるダイオキシン濃度のデータを示されたい。

⑤ ロータリーキルン炉、ストーカー炉、二次燃焼室の各温度については、常時記録を行うのか。

⑥ ロータリーキルン炉、ストーカー炉、二次燃焼室の各温度については、住民はいつでも見ることができるのか。

8 焼却処理後の工程（排ガス処理など）について

ア 焼却処理後の工程におけるダイオキシン対策の具体的内容は、どのようなものか。

① 排ガスを低温化する方法について具体的に説明されたい。

イ 消石灰、活性炭による排ガスの清浄化は、具体的にどのような方法で行うのか。

ウ バグフィルタ（集塵装置）におけるダイオキシン対策は、どのようなものか。

- ① バグフィルタの材質及び種類は何か。
- ② バグフィルタが機能していることをどうやって確認するのか。

エ 排ガスの拡散係数はどれくらいか。

- ① 大気拡散モデルを具体的に示されたい。
- ② 大気拡散モデルに使用したデータを示されたい。
- ③ 最大着地点はどこか。また、そこを最大着地点とする根拠は何か。

9 メンテナンスと連続運転について

ア ロータリーキルン炉、ストーカー炉、二次燃焼室、廃熱ボイラ、ガス冷却室、バグフィルタ等の各部分のメンテナンスは、どれくらいの期間ごとに、どのような方法でなされるのか。

イ メンテナンスのために運転が休止される期間はどれくらいか。

ウ 年間の連続運転期間と休止期間とはどのようなようになるのか。

第4 その他の有毒物質について

1 有毒排ガスについて

ア 次に示す排ガス中の有毒物質については、排出基準としてどのような値を遵守するのか。

- ① 一酸化炭素 (CO)
- ② 塩化水素 (HCl)
- ③ 硫黄酸化物 (SO_x)
- ④ 窒素酸化物 (NO_x)
- ⑤ ばいじん

2 重金属類について

ア 排ガス、焼却主灰、飛灰の中の重金属類 (鉛、水銀、亜鉛、カドミウム) については、どのような削減対策を講じるのか。

イ 分別収集ができない重金属類はあるか。あるとすれば、それは何か。

3 放射線について

ア 焼却主灰及び飛灰の放射線量は測定するのか。

するとすれば、いかなる頻度で、どのような方法の測定を行うのか。

しないとすれば、なぜ測定しないのか。

4 焼却主灰及び飛灰について

ア 焼却主灰及び飛灰は、それぞれどのような成分の物で、どのくらいの量が排出されるのか。

イ 焼却主灰及び飛灰中のダイオキシン類及び重金属類の量は、それぞれどれくらいか。データを示されたい。

第5 その他の安全対策

1 本件施設の事故対策はどのようになっているのか。

2 用水対策について

ア 本件施設の用水は、いかなる水源からどれほどの量を確保するのか。

イ 工場用水は工場外に排出されるのか。

排出されるというのであれば、いかなるルートからどれほどの量を排出するのか。

排出されないというのであれば、どのような仕組みで排出されないのか。

ウ 同じ区域にある関連会社からは施設外へ用水が排出されているのか。

排出されているとすれば、その排水が本件施設のものでないことをどのようにして明らかにするのか。

エ 雨水の排出についてはどのような措置となっているのか。

3 臭気対策はどのようになっているのか。

4 振動対策はどのようになっているのか。

ア 振動を発生させる機器にはどのようなものがあるか。

5 騒音対策はどのようになっているのか。

- ア 騒音を発生させる機器にはどのようなものがあるか。
- 6 廃棄物の搬入・運搬とその騒音対策及び安全対策はどうなっているのか。
 - ア 廃棄物の収集運搬車の台数を50台/日(片道)と見込んだのは、いかなる根拠によるものか。
 - イ 廃棄物の収集運搬車の排気ガス対策はどうなっているのか。
- 7 粉じん対策はどのようなになっているか。
 - ア 屋内に設置される破砕機からの粉じんが屋外へ排出されないようにする具体的方法を示されたい。
 - イ 屋内で働く労働者に対する粉じん対策はどうするのか。

第6 立地について

- 1 山家が他の地域よりも安全性・環境保全の見地から適地である根拠を明らかにされたい。
 - ア 山家以外に検討された土地はどこか。
 - イ 上記検討の結果を示されたい。

第7 その他

- 1 焼却炉の実績について
 - ア 本件で予定されているタクマのロータリーキルン&ストーカー炉を用いている焼却施設は存在するのか。
 - ① 民間業者が事業者となって同型炉で産廃を焼却しているものがあるか。
 - ② あるとすればその実績を明らかにされたい。
- 2 各施設の処理能力について
 - ア 各施設の処理能力(量)にばらつきがあるが、この点の整合性について説明されたい。
- 3 耐用年数について

- ア ロータリーキルン、ストーカー炉、二次燃焼室、廃熱ボイラ、ガス冷却室、バグフィルタ等の各部分の耐用年数は何年か。
- イ 焼却施設全体の建て替え時期はいつで、その際の建て替えはどのようにするのか。
 - ① 次回の建て替えに際しては山家を候補地とするのか。
- 4 費用について
 - ア 建設費用及びメンテナンス費用はいくらかかるのか。
 - ① 施設建設費と用地造成費とを分けて示されたい。
 - イ 維持管理費用はいくらかかるのか。
- 5 2期工事によって建設される溶融施設の内容につき、具体的に説明されたい。
 - ア 溶融施設から排出されるスラグの量及び成分を示されたい。
 - イ スラグの保管や最終的な処理は、どのようにするのか。
- 6 稼働体制について
 - ア 本件焼却施設は24時間体制で稼働させることになるのか。
 - ① 24時間の人員体制はどうするのか。
- 7 生活環境影響調査について
 - ア 生活環境影響調査を担当したとされる財団法人九州管理協会には、衛生工学を専門とする技術士は在籍しているか。
 - イ 本件施設が生態系に対して与える影響についての調査は実施したか。
 - ① 実施したとすれば、調査期間は、いつからいつまでか。
 - ② 生態系への影響調査を行うに際して、遵守しなければならなかった関係法令を示されたい。

以上